

## エキサイトよこはま22(横浜駅周辺大改造計画)まちづくりガイドライン改定案に 対する市民意見募集の実施結果

エキサイトよこはま22ガイドライン検討会(以下ガイドライン検討会という)では、「まちづくりガイドライン」の改定にあたり、平成25年1月22日に改定案を公表し、市民意見募集を実施しました。市民の皆様から、貴重なご意見、ご提案を頂誠にありがとうございました。

このたび、その実施結果と、頂いたご意見についてのガイドライン検討会の考え方をまとめましたので、公表します。

### 1 実施概要

意見募集期間	平成25年1月22日(火)から2月4日(月)まで
意見提出方法	郵送または持参、ファクシミリ、電子メール
改定案の公表場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西区区政推進課、神奈川区区政推進課、市役所市民情報センター</li> <li>・都市整備局都市再生推進課、みなとみらい21推進課、企画課、地域まちづくり課</li> <li>・都市整備局ホームページ (<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/tosai/daikaizou/guideline/kaitei.htm">http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/tosai/daikaizou/guideline/kaitei.htm</a>)</li> </ul>
改定案概要版リーフレットの配架場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西区区政推進課、神奈川区区政推進課、市役所市民情報センター</li> <li>・都市整備局都市再生推進課、みなとみらい21推進課、企画課、地域まちづくり課</li> <li>・横浜駅行政サービスコーナー</li> <li>・市営地下鉄横浜駅構内PRボックス</li> </ul>

### 2 実施結果

提出者数	6通(4名・2法人)			
提出方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子メール3通(1名及び2法人)</li> <li>・ファクシミリ2通(2名)</li> <li>・持ち込み(1名)</li> </ul>			
意見数	24件			
分類と意見数	ガイドラインの位置付け等	1件	景観分野	2件
	土地利用・空間形成分野	3件	歩行者・親水空間分野	2件
	環境分野	2件	交通環境分野	2件
	防災・防犯分野	10件	その他	2件

### 3 提出されたご意見とご意見に対するガイドライン検討会の考え方

(1) 改定案に反映したもの	3件
(2) ご意見の趣旨が改定案に含まれていると考えられるもの	5件
(3) 今後の参考とさせていただくもの	8件
(4) その他	8件

## 頂いたご意見とガイドライン検討会の考え方

頂いたご意見	ガイドライン検討会の考え方
<p>ガイドラインは民間と行政が協働して再開発を行なう際の・・・とされているが、協働とは具体的にどのようなことか。税金投入のことか。どのくらいの額を想定しているのか。</p>	<p>エキサイト計画を進めるにあたっての「協働」とは、例えば、交通基盤等に関する課題解消に向け、民間と行政が施設整備・負担に関する役割分担を行うことや、民間開発敷地内での良好な環境形成や公開空地の確保などを行う場合、民間活力を適切に誘導するための容積率緩和を行うなどの取り組みを推進することなどです。</p>
<p>国際的な交流拠点としての都市機能強化、国際競争力強化などが重視されているが、一番重視すべきは市民にとって快適なまちにすることである。 すべての世代の市民が快適に住み、働き、利用できるまちにする必要がある。これにより外国から訪れる人々に誇れるまちとなる。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ガイドラインに沿って、国際競争力強化に向けた機能集積等とともに、人々が快適に過ごせるよう、水・緑・風を活用した快適な環境形成、都市景観の演出、歩行者空間・親水空間の創出等の取り組みを推進していきます。</p>
<p>エキサイト計画により、横浜駅界隈で来街者の足を止めてしまったら、MM21、関内、桜木町、元町、金沢八景、上大岡等の商業やレジャー施設は商売上がったりではないか。 みなとみらい21地区のまちづくりは計画していた中身と相当隔たりがあるようだが、大丈夫なのか。</p>	<p>横浜駅周辺は国際都市横浜の玄関口として、国際競争力のあるまちを目指し、交通ターミナル機能や広域的な商業・業務機能等を高めていくこととしています。 頂いたご意見は、横浜市の今後のまちづくりを進めていく上での参考とさせていただきます。</p>
<p>市民や区民が十分利用できるようなコミュニティスペースを設けてほしい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ガイドラインに沿って、人々の活動・交流を促す文化創造機能、交流機能の強化や、オープンスペースの確保・水辺の活用などを進め、憩い・にぎわいに満ちた魅力溢れる空間づくりを推進していきます。</p>
<p>環境分野における「省エネルギー化推進や災害安全性を高める自立・分散型エネルギーマネジメントシステムの構築などによる低炭素まちづくりを目指すことに賛同する。 エネルギーの面的利用に関する検討が示されているが、コージェネレーションの導入などの具体的な取り組みの実現に向け、力強い推進力を発揮してほしい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ガイドラインに沿って、低炭素まちづくり等を推進していきます。</p>
<p>屋上に湧水等を利用して、実験水田のようなものを設けてはどうか。ヒートアイランド対策や生物多様性に貢献できるとともに、横浜を訪れる人に強いインパクトを与えられると思う。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ガイドラインには、ヒートアイランド対策として、屋上緑化や親水空間の創出等を掲げています。頂いたご意見も参考に、環境への取り組みを推進していきます。</p>

頂いたご意見	ガイドライン検討会の考え方
<p>治水事業の推進に関して、改定素案の中には記載が見当たらない。少なくとも現行ガイドラインには、「河川、下水、まちづくりが連携した浸水対策」という記述があるが、今回の改定案からは、あえて記述を外そうとしているのか。防災や環境分野は、それぞれの背景（東日本大震災等）までが基本方針に記述されているので、河川についての記述もあるべき。</p>	<p>治水については、エキサイトよこはま22のうち「基盤整備の基本方針」において、河川、下水道、まちづくりが連携した浸水対策の実施が掲げられていますが、ご意見を踏まえ、「まちづくりガイドライン」においても、防災・防犯分野の基本方針に記載しました。</p>
<p>防災・防犯分野の基本方針に今後想定される地震、津波の規模、発生する確率を明記し、大震災を風化させないことが重要だ。併せて、この地域は明治の中頃までは海で、古い工法で埋め立てられた軟弱地盤であることも明記することが大事だ。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、「横浜市地震被害想定調査報告書」の内容を記載しました。なお、津波浸水予測については、参考資料として掲載しています。 地震被害想定の詳細につきましては、「横浜市地震被害想定調査報告書」をご覧ください。 ※横浜市地震被害想定調査報告書 <a href="http://www.city.yokohama.jp/ne/news/press/201210/20121017-019-15446.html">http://www.city.yokohama.jp/ne/news/press/201210/20121017-019-15446.html</a></p>
<p>マグニチュード7クラスの地震の際、液状化が相当な規模で発生しないか心配だ。センターゾーン、南幸町で大改造（エキサイトよこはま22）が行われたら、隣接の岡野町や平沼町など同じような地盤が変動をきたすのではないのか。調査をおこなっているのか。</p>	<p>消防局液状化マップによれば、元禄型関東地震において、エキサイト計画内の駅西口周辺については、液状化危険度が高く、岡野町や平沼町の一部については、液状化の可能性のある地域とされています。 ※消防局液状化マップ<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/shobo/kikikanri/ekijouka-map/h24eki_jyoukamap.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/shobo/kikikanri/ekijouka-map/h24eki_jyoukamap.html</a></p>
<p>地下商店街、地下鉄駅、東急東横線、横浜駅中央自由通路などの水面下の施設は地域全体の地盤面嵩上げ、止水板により浸水防止を実施できるのか。センターゾーン、南幸町の一体は海拔0.5m～1mだが、一帯を嵩上げするのか。地下街への入口は相当あるが海拔表示は行わないのか。</p>	<p>地盤嵩上げや地下入口部分への止水板等による浸水対策は必要ですので、ガイドラインに記載しています。また、津波から人命を守るためには、まず迅速な避難が重要と考えていますので、ガイドラインでは、堅牢な建物の3階以上の場所に来街者を受け入れることを基本ルールにするとともに、津波避難施設としての協定を横浜市と結んでいただけるようお願いをしています。 なお、海拔標示ステッカーは、横浜市が、浸水が予測されている区域とその周辺の海拔10メートル以下の区域にあるカーブミラーや道路照明灯などに、100メッシュごとに1か所を目安として設置しています。</p>
<p>東口の路線バスの乗降場を西口に移動し、バスの駐車場の先一帯を海面前の間を嵩上げし防潮堤の役割を持たせ津波対策を考えているようだが、嵩上げしても押し寄せた津波は新田間川、帷子川を遡上し、橋により遡上が遮られ水は一帯に溢れ、地下街にも流れ込む大変な事態になる。</p>	<p>ご指摘の津波対策はガイドラインには記載していません。 津波対策としては、迅速な避難が最も重要と考えています。このため、ガイドラインでは、堅牢な建物の3階以上の場所に来街者を受け入れことを基本ルールとしています。また、津波避難施設としての協定を横浜市と結んでいただけるようお願いしています。</p>
<p>下水道は配管が地下にあるため、液状化や地震に弱く、復旧に時間がかかる。神奈川・中部水再生センターは海岸に近く大津波時に大きな被害がでもおかしくない。あらたな下水道システムの検討の項目があってもよいのではないのか。2050年までに何らかの対策を取りたい。</p>	<p>ガイドラインは、民間と行政が連携・協働して地区の魅力向上を図るため、まちづくりの基本方針や再開発等を行なう際のルールを示したものです。 頂いたご意見は、今後のまちづくりを進めていく上での参考とさせていただきます。</p>
<p>東日本大震災の津波到来時の帷子川や新田間川はどれぐらい水位が上昇したのか。</p>	<p>気象庁により、東日本大震災時の横浜港の津波高さは1.60mと発表されています。</p>
<p>ガイドライン改定案では従業員の施設内待機が織り込まれているが、津波時において地下街で働く方々にも適用するのか。</p>	<p>津波警報等の発表時には、「津波からの避難に関するガイドライン」に基づき、海拔5m以上または堅牢な建物の3階以上に避難することになっています。津波時の対応については、地域の対応ルール【津波版】を参考にしてください。また、ご意見を踏まえ、参考資料に地震発生時の従業員の対応フローを記載しました。なお、帰宅困難者の発生抑制の取組みである「建物内で働く従業員の施設内待機」は、地下街で働く方々も適用します。</p>
<p>既存の建造物の中で、新耐震基準に基づかないものは建替えるのか。ダイヤモンド地下街は新耐震基準に適合していないと思うが、耐震補強を行うのか。</p>	<p>建替えの際は、新耐震基準が適用され、順次新耐震基準に適合した建築物となります。 西口地下街については、施設管理者から横浜市に対し、新耐震基準に照らして十分な強度を保有していると報告がなされています。</p>
<p>防災・減災・安全を最優先したまちづくりをすべき。超高層や高層の建物が林立するまち、横浜駅周辺ばかり商業施設が集中し、大勢の人が集まるまちづくりは抜本的に見直し、市内各地域が活気あるまちになるようにすべきである。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ガイドラインに沿って、地震や水害などの災害に強い防災・減災まちづくりを推進していきます。 なお、横浜駅周辺は国際都市横浜の玄関口として、国際競争力のあるまちを目指し、交通ターミナル機能や広域的な商業・業務機能等を高めていくこととしています。</p>

頂いたご意見	ガイドライン検討会の考え方
<p>景観、海辺をつくっても珍しいうちはともかく散策する人などいないのではないか。</p>	<p>ガイドラインに沿って、魅力あるまちづくりを推進していきます。また、社会・経済情勢等に応じ、ガイドラインの内容については、追加見直しを行なっていきます。 頂いたご意見は、今後のまちづくりを進めていく上での参考とさせていただきます。</p>
<p>歩いて楽しむことができる歩行者空間の景観形成と書いてあるので、歩きやすくきれいな街になると思うと楽しみです。ぜひ横浜駅を素敵な場所にしてほしい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ガイドラインに沿って、景観資源を生かした横浜ならではの景観の創出などを推進していきます。</p>
<p>「環境豊かな親水空間ネットワークの形成」とあるが、東京のお台場や多摩川のようなスペースがないので、効果的な事業を実施するのは難しい。山下公園前の海では、トライアスロン大会の時ぐらしか泳げない。</p>	<p>主要な親水拠点における空間づくりの例として、開発にあわせた建物のセットバックによる新たな空間の確保、河川側の景観への配慮や低層部の賑わいの演出等の取組みを掲げています。</p>
<p>横浜駅周辺は今後更に来街者が増え、高齢者やお体の不自由な方にとって今以上駅構内が歩きにくくなるのでは残念だ。また今は、お店に入らないと座れるところがなく、休日だと、お店に入るのに並んで待つことがある。 改定案に記載のある「歩行者動線」、「ユニバーサルデザインの推進」、「ベンチや休憩スペースの設置」について、様々な世代からの意見を聞いて、より良いものにしてほしい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ガイドラインに沿って、魅力ある通りの創出などを推進していきます。</p>
<p>今後、高齢者や高齢に伴う身体障害者が増えるため、自転車利用の推進だけでなく、バリアフリーの検討、路面電車のような新たな移動手段の検討が必要だ。</p>	<p>ガイドラインは、民間と行政が連携・協働して地区の魅力向上を図るため、まちづくりの基本方針や再開発等を行なう際のルールを示したものです。 エキサイト計画のうち、もうひとつの柱である「基盤整備の基本方針」において、誰もが利用しやすい歩行者空間の創出を掲げ、駅・鉄道施設や歩行者空間のバリアフリー化を進めています。 頂いたご意見は、今後のまちづくりを進めていく上での参考とさせていただきます。</p>
<p>路線バスを西口に集約することはリスクの集約化に繋がらないのか。東口の中区方面行きのバスはどうするのか。</p>	<p>今回ご指摘の路線バスの集約については、ガイドラインに記載していません。頂いたご意見は、今後の基盤整備を進めていく上での参考とさせていただきます。</p>
<p>大改造計画を実施する上で、横浜市の財政負担がどう検討されているかを明らかにしないと、市民が意見を出す上で判断できない。市はどれだけの財政負担をするのか。負担額によっては、市民生活に関わる財政を大きく圧迫する。</p>	<p>横浜駅周辺のまちづくりの取組みにあたっては、その事業効果や投資効果を鑑みながら、行政と民間が連携し、効率的に事業を進めていくことが必要であると考えています。</p>
<p>現在の「エキサイトよこはま22」は、3・11の東日本大震災や東電福島原発事故の体験以前のものである。これらの体験は市民の価値観に大きく影響を与えたので、「エキサイトよこはま22」全体についての意見を聞く機会を規模を大きくして改めて設けるべきではないか。</p>	<p>頂いたご意見は、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。 なお、ガイドラインは、社会・経済情勢に応じ、内容の追加、見直しが必要なものであり、必要に応じて点検を実施し見直しをガイドラインに記載しています。 エキサイト計画に対するご意見は、横浜市の担当窓口でいつでもお受けします。</p>